平成２２年度

教育に関する事務の管理及び執行の

点検及び評価報告書

平成 23 年 8 月 26 日

長岡市教育委員会

教育委員会事務の点検及び評価について

1　点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年度から教育委員会は毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすために、平成22年度の長岡市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、長岡市教育委員会事務評価委員会の意見等を付して、報告するものです。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関連条文抜粋）

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たつては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2　点検及び評価の方法

(1)　点検及び評価の対象

点検及び評価は、長岡市教育委員会が執行している事務・事業のうち「長岡市総合計画」（平成19年３月策定）の基本構想で掲げた政策である「人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現」及び「生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現」の中から教育委員会に関連のあるものを中心に行いました。

(2)　点検及び評価の手順

平成23年４月から７月にかけて、平成22年度に長岡市教育委員会において執行した事務について、次の手順で点検及び評価を行いました。

教育委員会事務局における点検の実施

↓

事務評価委員会による教育委員及び事務局職員へのヒアリング

↓

事務評価委員会による評価報告書の作成

↓

教育委員会による評価報告書の決定

↓

市議会への報告及び公表

【目　　次】

Ⅰ　教育委員会会議の開催及び審議状況等について
　1　教育委員会４月定例会（平成 22 年４月 23 日開催）……………………　1
　2　教育委員会５月定例会（平成 22 年５月 26 日開催）……………………　1
　3　教育委員会６月定例会（平成 22 年６月 25 日開催）……………………　2
　4　教育委員会７月定例会（平成 22 年７月 20 日開催）……………………　2
　5　教育委員会８月定例会（平成 22 年８月 25 日開催）……………………　3
　6　教育委員会９月定例会（平成 22 年９月 29 日開催）……………………　3
　7　教育委員会 10 月定例会（平成 22 年 10 月 18 日開催）…………………　4
　8　教育委員会 11 月定例会（平成 22 年 11 月 18 日開催）…………………　4
　9　教育委員会 12 月定例会（平成 22 年 12 月６日開催）…………………　5
　10　教育委員会１月定例会（平成 23 年１月 25 日開催）……………………　5
　11　教育委員会２月定例会（平成 23 年２月 15 日開催）……………………　5
　12　教育委員会３月臨時会（平成 23 年３月３日開催）………………………　6
　13　教育委員会３月臨時会（平成 23 年３月 17 日開催）……………………　6
　14　教育委員会３月定例会（平成 23 年３月 24 日開催）……………………　6
　15　施設訪問 ……………………………………………………………………　7
　○　教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組み等……………　8
Ⅱ　教育委員会における事務の点検・評価について
　1　生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現 ………………………　9
　　(1) 子育てを支援する場の整備 ……………………………………………　9
　　　○　家庭・地域の子育て支援施設の整備・運営（子ども家庭課）…………　9
　　　○　保育園施設等の整備（保育課）…………………………………………　10
　　　○　児童館・児童クラブ等の整備・運営（子ども家庭課）………………　10
　　(2) 子育て支援サービスの拡充 ……………………………………………　10
　　　○　家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備①（子ども家庭課）……　10
　　　○　家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備②（保育課）…………　11
　　　○　保育サービスの充実（保育課）…………………………………………　12
　　　○　子育てを支援するサービスの拡充①（子ども家庭課）…………………　12
　　　○　子育てを支援するサービスの拡充②（保育課）…………………………　13
　2　人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現 ………………………　13
　　(1) やる気や学ぶ意欲を引き出す教育の推進 ……………………………　13
　　　　(熱中！感動！夢づくり教育の推進)
　　○　どの子にもわかる授業の実現①（学校教育課）…………………………　14
　　○　どの子にもわかる授業の実現②（学務課）………………………………　14
　　○　どの子にもわかる授業の実現③（教育センター）………………………　15
　　○　地域の力、市民の力を生かした教育の推進（学校教育課）……………　15
　　○　熱中・感動体験活動の充実（学校教育課）………………………………　16
　　○　幼稚園教育・高等教育の振興①（学務課）………………………………　17
　　○　幼稚園教育・高等教育の振興②（保育課）………………………………　17
　　(2) 子どものサポート体制の充実 …………………………………………　18
　　○　生徒指導の充実①（学校教育課）…………………………………………　18
　　○　生徒指導の充実②（教育センター）………………………………………　19
　　○　特別支援教育の充実（学校教育課）………………………………………　19
　　○　心のケア対策の充実（学校教育課）………………………………………　20
　　(3) 青少年の健全育成活動の推進 …………………………………………　20
　　○　交流・体験学習環境の充実（子ども家庭課）……………………………　20
　　○　非行防止活動の充実（子ども家庭課）……………………………………　21
　　(4) 安全・安心な教育環境の整備 …………………………………………　22
　　○　子どもの安全確保を図る体制づくりの推進（学校教育課）……………　22
　　○　防災・防犯教育の充実（学校教育課）……………………………………　22
　　○　学校施設における安全性の確保（教育総務課）…………………………　23
　　(5) 歴史的・文化的遺産の継承及び活用促進 ……………………………　23
　　○　歴史的・文化的遺産の保存及び継承（科学博物館）……………………　24

(6) 市民主体の生涯学習の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
○ 生涯学習機会の充実①（中央公民館）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
○ 生涯学習機会の充実②・生涯学習関連施設の整備①（中央図書館）・・・・・ 25
○ 生涯学習関連施設の整備②（科学博物館）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
(7) スポーツ・レクリエーション活動の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
○ 生涯スポーツ活動の充実（スポーツ振興課）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
○ 競技スポーツの振興（スポーツ振興課）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
○ ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ施設の整備及び管理運営（スポーツ振興課）・・・・・・・・・・・ 28

●点検及び評価に対する意見書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
・全体を通しての意見・・・ 30
・各施策についての意見・・・ 30

Ⅰ　教育委員会会議の開催及び審議状況等について

平成 22 年度に教育委員会定例会を 12 回、臨時会を２回開催した。定例会のうち８回は教育委員会事務局のある幸町分室以外の施設で開催し、48 件の議案を審議した。また、協議報告事項は 67 件であった。

さらに、施設訪問を８回実施し、21 か所で授業（保育）参観・懇談・給食試食及び施設内視察を行った。

審議の結果は、以下のとおりである。

１　教育委員会４月定例会

○ 日　時　平成２２年４月２３日（金曜日）
　　　　　午後４時から午後５時まで

○ 場　所　長岡市教育委員会会議室

○ 傍聴人　なし

○ 議　事（３件）

議案第 50 号	長岡市平成 22 年度における子ども手当の支給に関する法律施行細則の制定について	原案決定
議案第 51 号	専決処理について（補正予算の要求について）	原案承認
議案第 52 号	専決処理について（附属機関委員の委嘱について）	原案承認

○ 協議報告事項（４件）

・ながおか子育てネット『おやこ遊び場ガイド』の発行について
・平成 22 年度長岡市成人式について
・長岡市青少年問題協議会委員について
・平成 21 年度第２回長岡市スポーツ振興審議会会議報告について

２　教育委員会５月定例会

○ 日　時　平成２２年５月２６日（水曜日）
　　　　　午後３時４５分から午後４時２０分まで

○ 場　所　川口支所　第一会議室

○ 傍聴人　２人

○ 議　事（５件）

議案第 53 号	条例改正の申出について（長岡市児童館設置条例の一部改正）	原案決定
議案第 54 号	条例改正の申出について（長岡市子育ての駅条例の一部改正）	原案決定
議案第 55 号	条例改正の申出について（長岡市法末自然の家条例の一部改正）	原案決定
議案第 56 号	長岡市地域子育て支援センター事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第 57 号	補正予算の要求について	原案決定

○ 協議報告事項（５件）

・長岡市子育て応援プラン後期行動計画について
・平成 22 年度長岡市成人式について

・平成 22 年度第１回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告について
・教科書展示会について
・ラジオ体操開催事業について

３　教育委員会６月定例会

○ 日　時　平成２２年６月２５日（金曜日）
　　　　　午後３時３０分から午後４時２０分まで
○ 場　所　旭岡中学校　会議室
○ 傍聴人　２人
○ 議　事（１件）

議案第 58 号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

○ 協議報告事項ほか（７件）
・６月市議会における教育委員会関係の質問事項について
・平成 22 年度学校・子どもかがやき塾　夢企画事業の内容について
・平成 22 年度地域・子ども元気塾助成団体について
・平成 21 年度麻しん予防接種の実施結果について
・青少年健全育成のつどい「元・オリンピック柔道選手　古賀稔彦さん講演会」の開催について
・文芸講演会「長岡が生んだ伝説の古書書店　反町茂雄氏の人と業績」の開催について
・栃尾美術館「大山治郎コレクション展」の開催について

４　教育委員会７月定例会

○ 日　時　平成２２年７月２０日（火曜日）
　　　　　午後３時３０分から午後５時まで
○ 場　所　長岡市教育委員会会議室
○ 傍聴人　なし
○ 議　事（４件）

議案第 59 号	平成 23 年度使用教科用図書の採択について	原案決定
議案第 60 号	長岡市子育ての駅条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第 61 号	長岡市知的障害児通園施設設置条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第 62 号	長岡市立保育園等一時保育事業実施要綱及び長岡市地域子育て支援センター事業実施要綱の一部改正について	原案決定

○ 協議報告事項（１２件）
・養護学校の構想と施設整備について
・長岡市青少年文化センター温水プールの状況について
・宮内中学校校舎等増改築工事入札状況について
・郷土長岡を語る『 長岡学（仮称）』作成事業について
・子育ての駅ちびっこ広場のオープンについて

・平成 22 年度子どもの虐待防止啓発事業「学校出前講座」の実施について
・平成 22 年度版「子育てガイド」の発行について
・白山保育園の移転改築工事について
・長岡市私立幼稚園運営費等補助金交付要綱の一部改正について
・平成 22 年度　第１回長岡市水族博物館協議会会議報告について
・第 40 回教育講演会について
・平成 22 年度　第１回長岡市スポーツ振興審議会会議報告について

５　教育委員会８月定例会

○ 日　時　平成２２年８月２５日（水曜日）
　　　　　午後２時３０分から午後４時２０分まで

○ 場　所　栃尾支所　研修室

○ 傍聴人　３人

○ 議　事（５件）

議案第 63 号	条例改正の申出について（長岡市立学校使用条例の一部改正）	原案決定
議案第 64 号	長岡市産前産後家庭生活応援事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第 65 号	平成 21 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について	原案決定
議案第 66 号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
議案第 67 号	補正予算の要求について	原案決定

○ 協議報告事項（１０件）

・食に関する調査の結果について
・長岡市子どもの医療費助成事業実施要綱の一部改正について
・平成 22 年度長岡市青少年健全育成総合対策実施計画について
・平成 22 年度長岡市成人式（８月実施分）について
・第 50 回新潟県小中学校ＰＴＡ研究大会長岡大会の開催について
・子育てフェスティバル２０１０の開催について
・平成 22 年度第２回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告について
・平成 22 年度第１回長岡市図書館協議会会議報告について
・平成 22 年度第１回長岡市栃尾美術館協議会会議報告について
・栃尾美術館「美術館に行こう　ディック・ブルーナに学ぶモダンアートの楽しみ方」の開催について

６　教育委員会９月定例会

○ 日　時　平成２２年９月２９日（水曜日）
　　　　　午後２時３０分から午後４時２０分まで

○ 場　所　宮内中学校　会議室

○ 傍聴人　２人

○ 議　事（３件）

議案第 68 号	長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について	原案決定
議案第 69 号	長岡市青少年育成センター設置条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第 70 号	専決処理について（長岡市教育委員会表彰規則の一部改正について）	原案承認

○ 協議報告事項（６件）
- ９月議会における教育委員会関係の質問事項について
- 教育委員会関係工事等の入札状況について
  養護学校校舎増築工事
  日越小学校グラウンド整備事業用地取得
- 開かれた学校づくり推進事業　第９回「いきいき教育推進懇談会」実施計画概要について
- 全国学力・学習状況調査の活用について
- 平成 22 年度就学時等家庭教育講座の実施について
- 今森光彦写真展「昆虫４億年の旅」について

7　教育委員会１０月定例会

○ 日　時　平成２２年１０月１８日（月曜日）
　　　　　午後３時４５分から午後５時１５分まで

○ 場　所　三島中学校　会議室

○ 傍聴人　３人

○ 議　事（２件）

議案第 71 号	長岡市立学校通学区域規則の一部改正について	原案決定
議案第 72 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	原案決定

○ 協議報告事項（４件）
- インフルエンザによる学級閉鎖等の基準見直しについて
- ポニー関連事業の実施状況について
- 平成 22 年度中央図書館利用者アンケート集計結果について
- 「第 59 回県下生物標本展示会」「第 52 回県下自然科学写真展示会」の開催について

8　教育委員会１１月定例会

○ 日　時　平成２２年１１月１８日（木曜日）
　　　　　午後４時から午後５時１５分まで

○ 場　所　栖吉中学校　図書室

○ 傍聴人　２人

○ 議　事（４件）

議案第 73 号	条例改正の申し出について（長岡市青少年文化センター条例の一部改正）	原案決定
議案第 74 号	長岡市妊婦健康診査実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第 75 号	指定管理者指定の申出について（長岡市青少年文化センターの指定管理者の指定）	原案決定

議案第 76 号	補正予算の要求について	原案決定

○ 協議報告事項（２件）

・平成 23 年度の新規事業について

・長谷川邸人身事故に係る和解及び賠償金の支払いについて

9　教育委員会１２月定例会

○ 日　時　平成２２年１２月６日（月曜日）

午後１時１５分から午後５時１５分まで

○ 場　所　長岡市教育委員会会議室

○ 傍聴人　１人

○ 議　事（１件）

議案第 77 号	平成 23 年度当初予算の要求について	原案決定

○ 協議報告事項（１件）

・平成 22 年度第３回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告について

10　教育委員会１月定例会

○ 日　時　平成２３年１月２５日（火曜日）

午後３時５０分から午後５時１５分まで

○ 場　所　新町小学校　会議室

○ 傍聴人　３人

○ 議　事（５件）

議案第１号	平成 23 年度全国学力・学習状況調査への参加について	原案決定
議案第２号	長岡市青少年文化センター条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第３号	補正予算の要求について	原案決定
議案第４号	専決処理について（補正予算の要求について）	原案承認
議案第５号	専決処理について（長岡市立科学博物館名誉館長設置要綱の制定について）	原案承認

○ 協議報告事項（４件）

・12 月議会における教育委員会関係の質問事項について

・宮内中学校校舎等増改築工事入札状況について

・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの無料接種について

・平成 22 年度　第２回長岡市栃尾美術館協議会報告について

11　教育委員会２月定例会

○ 日　時　平成２３年２月１５日（火曜日）

午後２時３０分から午後４時３０分まで

○ 場　所　青少年文化センター　多目的ホール

○ 傍聴人　１人

○ 議　事（４件）

議案第６号	平成 23 年度学校教育の努力点について	原案決定
議案第７号	条例廃止の申出について （長岡市小国青少年の家条例の廃止）	原案決定
議案第８号	補正予算の要求について	原案決定
議案第９号	専決処理について（補正予算の要求について）	原案承認

○ 協議報告事項（５件）

・長岡市総合計画後期基本計画（原案）について
・平成 23 年度長岡市教育委員会当初予算の概要について
・平成 23 年度「熱中！感動！夢づくり教育」の概要について
・平成 22 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と長岡市の比較・考察について
・平成 22 年度文部科学大臣優秀教員表彰について

12　教育委員会３月臨時会

○ 日　時　平成２３年３月３日（木曜日）
　　　　　午前９時から午前９時２５分まで
○ 場　所　長岡市教育委員会教育長室
○ 傍聴人　なし
○ 議　事（１件）

議案第 10 号	校長、教頭の人事異動の内申について	原案決定

○ 協議報告事項　なし

13　教育委員会３月臨時会

○ 日　時　平成２３年３月１７日（木曜日）
　　　　　午後４時から午後４時２０分まで
○ 場　所　長岡市教育委員会教育長室
○ 傍聴人　なし
○ 議　事（２件）

議案第 11 号	長岡市教育委員会組織規則の一部改正について	原案決定
議案第 12 号	職員人事について	原案決定

○ 協議報告事項　なし

14　教育委員会３月定例会

○ 日　時　平成２３年３月２４日（木曜日）
　　　　　午後１時３０分から午後２時４０分まで
○ 場　所　長岡市教育委員会会議室
○ 傍聴人　なし
○ 議　事（８件）

議案第 13 号	平成 23 年度社会教育の基本方針について	原案決定

議案第 14 号	長岡市教育委員会教育長の職務代理に関する規則等の一部改正について	原案決定
議案第 15 号	長岡市小国青少年の家条例施行規則の廃止について	原案決定
議案第 16 号	長岡市教育委員会事務評価委員会設置要綱等の一部改正について	原案決定
議案第 17 号	長岡市就学援助事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第 18 号	長岡市妊婦健康診査実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第 19 号	長岡市教育委員会事務決裁規程の一部改正について	原案決定
議案第 20 号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

○ 協議報告事項（７件）

・３月議会における教育委員会関係の質問事項について

・長岡市で制定している要綱の全部改正及び一部改正について

（全部改正）

長岡市全国大会等出場者に対する助成金交付要綱

（一部改正）

長岡市立小学校児童冬期通学費補助金交付要綱

長岡市地域・子ども元気塾助成金交付要綱

長岡市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱及び長岡市私立幼稚園就園費助成要綱

・附属機関会議報告等について

長岡市社会教育委員会、長岡市公民館運営審議会

長岡市図書館協議会

15　施設訪問

○２１箇所を訪問

【内訳】小学校６、中学校５、保育園１、その他施設９

(1) 平成２２年６月２５日（金曜日）

与板小学校、旭岡中学校

(2) 平成２２年７月１５日（木曜日）

桂小学校、千手小学校

(3) 平成２２年８月２５日（水曜日）

科学博物館、栃尾白山保育園、栃尾美術館

(4) 平成２２年９月２９日（水曜日）

教育センター、宮内中学校

(5) 平成２２年１０月１８日（月曜日）

木遊館（雪国植物園内)、脇野町小学校、三島中学校

(6) 平成２２年１１月１８日（木曜日）

英語指導室、上組小学校、栖吉中学校

(7) 平成２３年１月２５日（火曜日）

双葉寮、北中学校、新町小学校

(8) 平成２３年２月１５日（火曜日）
信濃川大河津資料館、ワークセンターざおう、青少年文化センター

＜教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組み等＞

○長岡市教育委員会会議規則に基づき、教育委員会会議を適正に執行した。

○議案及び協議報告事項に対し、各委員から積極的な発言がなされ、十分な審議がなされた。

○教育委員会会議の審議の活性化を図るため、教育委員の研修を実施した。今後も継続していく。

○より開かれた教育委員会を目指すため、教育委員会定例会を各地域の施設や学校などの市民に身近な場所で開催することに努めた。平成 22 年度は川口支所、旭岡中学校、栃尾支所、宮内中学校、三島中学校、栖吉中学校、新町小学校、青少年文化センターの８箇所で定例会を開催し、地域・現場密着を目指した。

○学校開催のときは学校職員等の傍聴があり、これまで以上に学校現場へ教育委員の意見が直接浸透してきている。

○会議録については平成 20 年度からホームページで公開しており、平成 21 年度からは協議報告事項等も詳しく掲載し、審議の透明性を高めた。今後も継続していく。

○施設訪問では、現場の状況を把握することに努めた。訪問後、教育委員から意見等が示され、各課の施策に活かされている。

Ⅱ　教育委員会における事務の点検・評価について

平成19年３月に策定した「長岡市総合計画」に定める施策のうち、教育委員会で所管する施策について点検・評価を行った。

具体的には、各施策の柱ごとの「基本施策」について、平成22年度における目標値に対する達成状況を点検するとともに、個別の施策について点検・評価を実施したものである。

点検・評価の結果は、以下のとおりである。

１　生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現

(1)　子育てを支援する場の整備

目　　標	基準値(年度)	目標値(年度)	平成21年度達　成　値	平成22年度達　成　値
つどいの広場事業（ちびっこ広場）の実施箇所数を増やす。	１か所 (平成17年度)	３か所 (平成22年度)	２か所	４か所
保育園への入園待機状態を解消する。 【保育園待機児童数】	９人 (平成18年度)	０人 (平成22年度)	０人	０人
児童クラブを必要とする保護者が利用できる環境を整える。 【児童クラブ数、児童クラブ利用者数】	２８地区 ３１クラブ 237,897人 (平成17年度)	３４地区 ４７クラブ 352,500人 (平成22年度)	３８地区 ３９クラブ 278,466人	３９地区 ４０クラブ 294,023人

■施策の内容

【家庭・地域の子育て支援施設の整備・運営（担当：子ども家庭課)】

＜22年度の取組み＞

○長岡防災シビックコア地区に屋根付き公園と子育て支援施設、さらに防災学習機能が一体となった「子育ての駅ながおか市民防災センター（ぐんぐん)」を平成22年４月29日に開設した。また、ながおか市民センター内で運営していた「ちびっこ広場」を再開発ビル・フェニックス大手ウエスト２・３階に移転・拡充し、「まちなか絵本館」を併設する「子育ての駅ちびっこ広場」として、平成22年８月１日に開設した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○平成22年度の子育ての駅の来場者数は、275,351人であった（ちびっこ広場32,712人、てくてく173,283人、ぐんぐん69,356人)。今後も市民参加型の事業運営を目指し、公募委員で組織する子育ての駅運営委員会を設置し、利用者の立場に立った事業を展開するとともに、より良い活用方法を検討していく。

【保育園施設等の整備（担当：保育課）】

＜22 年度の取組み＞

○恵和保育園の整備増築を実施した。（定員 30 名増加した。）

○認定こども園なごみ保育園を新設した。（定員 24 名）

＜成果及び今後の取組み等＞

○引き続き今後の保育需要に見合う施設等の整備を推進していく。

【児童館・児童クラブ等の整備・運営（担当：子ども家庭課）】

＜22 年度の取組み＞

○児童に健全な遊びを与えながら、その健康を増進するとともに、豊かな情操の形成を目指し、児童館を地域における青少年健全育成活動の拠点とするよう運営した。

○児童クラブは、昼間保護者がいない小学校１～３年生を対象に、健全な遊びを中心とする健全育成事業を主に児童館で実施した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○コミュニティセンターの新築・改修に伴う児童館・児童クラブの移転

① 関原コミュニティセンターの移転新築に伴い、関原児童館・児童クラブを平成 22 年９月１日に移転・拡充した。

② 青葉台コミュニティセンター（ニュータウンセンタービル内）の改修に伴い、青葉台児童館・児童クラブを平成 23 年２月 21 日に１階から２階に移転・拡充した。

(2)　子育て支援サービスの拡充

目　　標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 20 年度 達　成　値	平成 22 年度 達　成　値
家庭児童相談室の認知度を高める。	４３．７％ (平成 15 年度)	５０．０％ (平成 20 年度)	５６．５％	—
保育サービスに対する満足度を高める。	６９．９％ (平成 15 年度)	７５．０％ (平成 20 年度)	８３．８％	—

※22 年度空欄は目標値の設定年度を平成 20 年度としているため

■施策の内容

【家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備①（担当：子ども家庭課）】

＜22 年度の取組み＞

○児童虐待の防止等を目的に地域と協働した子ども家庭支援事業を実施し、地域で気軽に子育ての不安や悩みを相談できる環境づくりを推進した。

① 家庭児童相談員が地域子育て支援センターを定期的に訪問し、グループミーティングを開催した。

② 家庭児童相談員が乳幼児健診の会場に出向き、親子に声をかけながら育児等に関する相談に応じた。

③ 地域子育て支援センターや健診会場等で家庭児童相談室のリーフレットを配布し、家庭児童相談室のＰＲを行った。

④ コミュニティセンターで地域の見守り・発見から支援につながる体制について講演を行った。

⑤ 学校に出向き、児童虐待の気づきや支援のポイント等について意見交換や支援体制等の周知を行った。

⑥ 地域子育て支援センターで、子育てで生じるストレスとの上手なつきあい方について、子育て中の母親を対象に講座を実施した。

○長岡市要保護児童対策地域協議会として、児童相談所、保健所、警察、医師会、歯科医師会、学校、市・教育委員会等が連携して、保護等が必要な子ども等に対し、適切な活動を実施した。

○長岡市要保護児童対策地域協議会の相談受付状況

・虐待に関する相談　　　１６４件

・虐待以外に関する相談　　７９件

＜成果及び今後の取組み等＞

○相談員が地域子育て支援センターへの定期的な訪問を行い、また乳幼児健診会場等に出向くことにより、気軽に子育ての不安や悩みを相談できる機会を増やすことができた。

○家庭の抱えるさまざまな問題に対応していくため、今後も子ども家庭支援事業を充実させていく。

【家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備②（担当：保育課）】

＜22 年度の取組み＞

○配慮を要する児童に早期に気づき、就学前から就学後まで一貫した計画のもと、継続した保護者・園支援を実施した。

①園から提出された「相談依頼票」に基づき園を訪問し支援するとともに必要に応じ保護者面談や専門機関との連携を図った。

②就学支援体制の充実を図った。

・「個別の指導計画」作成の支援

・「すこやかファイル」作成の支援と小学校への引継ぎ支援

・「就学支援シート」作成の支援

③保護者の子育てに関する相談を実施した。

④発達障害に関する理解と支援のために、保育士・幼稚園教諭・保健師・関係職員を対象に研修会を計画、実施した。

⑤「すこやかファイル」の目的がより明確になるよう、内容の検討と見直しを行なった。

＜成果及び今後の取組み等＞

○22 年度こどもすこやか応援チームが関わったケース

・支援を行った施設数　　　７９施設

・支援を行った児童数　　　１５７人

・すこやかファイル作成数　　３８人

・就学支援シート作成数　　　７人

○成果として、就学に関する支援が明確になり、小学校と園との連携が強化された。

○園支援や研修会を通し、配慮を要する児童の理解と具体的な対応の向上、保護者に対してもこどもすこやか応援チームの活動内容や認知度が上がった。

○「すこやかファイル」の見直しを行なうことで、小学校への単なる引継ぎ資料ではなく一貫した支援が行なわれるように、学校の役割を明確にし、理解を求めた。

○昨年同様、すこやかファイルを作成した保護者からは、「就学前に学校に伝えることができてよかった。」という声が多かった。対象児童を迎える小学校からも「就学前に児童の様子や保護者の思いを把握することができ、就学後の支援にたいへん役立つ。」という評価を得た。

○今後は、心理士が毎日勤務（嘱託）となったことで、より、保護者・園のニーズに添った支援が期待される。

【保育サービスの充実（担当：保育課)】

＜22 年度の取組み＞

○保育需要に見合うサービス提供の一環として、各種特別保育を実施した。

①一時保育事業　　　　　３１か所

②休日保育　　　　　　　　３か所

③地域子育て支援センター　３０か所

④病後児保育事業　　　　　４か所

＜成果及び今後の取組み等＞

○今後の保育需要に対する適切なサービスの提供に努める。

【子育てを支援するサービスの拡充①（担当：子ども家庭課)】

＜22 年度の取組み＞

○仕事と育児を両立するため、児童館・児童クラブ及び地域における育児の相互援助組織である、ファミリー・サポート・センターを運営した。

○児童クラブの定員超過状況解消に向けた取組みとして、児童クラブの登録方法を利用実態に合わせ、通年利用と一時利用の二つの形態に分けている。

＜成果及び今後の取組み等＞

○平成 22 年度ファミリー・サポート・センターの状況

①平成 23 年３月末現在登録会員数　１，２３２人

②平成22年度サポート活動件数　　６，４９９件
○ファミリー・サポート・センター事業のＰＲ及び会員獲得を進めるため、会員と子育て支援に関心のある市民との交流会を実施する。
○児童クラブの定員超過解消に向けた取組みとして、大規模児童クラブの分割又は増設を進める。

【子育てを支援するサービスの拡充②（担当：保育課)】
＜22年度の取組み＞
○一時保育事業を継続実施した。（３３か所）
※まちなか保育園、せんしゅう保育園を含む
○子育て支援センター事業を継続実施した。（３０か所）
＜成果及び今後の取組み等＞
○平成22年度の状況
①一時保育事業利用者数　　　　　　　１０，６１９人
②子育て支援センター事業参加者数　１１４，４７４人
○適切な利用者へのＰＲ周知により、サービス利用者の拡大を図る。

２　人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現
(1)　やる気や学ぶ意欲を引き出す教育の推進
（熱中！感動！夢づくり教育の推進）

目　標	基準値(年度)	目標値(年度)	平成21年度達成値	平成22年度達成値
子ども一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導ができる体制を整える。【アシスタントティーチャー（教育補助員）の配置数】	３９人(平成18年度)	４５人(平成22年度)	４６人	４３人
教育に参加・協力する地域の団体、NPO等を増やす。【地域・子ども元気塾の支援団体数（文化芸術・体育系)】	２６団体(平成18年度)	３０団体(平成22年度)	２２団体	２０団体

■施策の内容

【どの子にもわかる授業の実現①（担当：学校教育課）】

＜22 年度の取組み＞

○学習指導、生徒指導等の教育活動の充実を図るため、教育活動の補助を必要とする学校に教育補助員を配置した。

重点校（小学校）１校（２名)、(中学校）１校（２名）

小学校　　　　２２校（２２名）

中学校　　　　１７校（１７名）

○外国語を通して、国際社会に通用する表現力やかかわる力を身に付けさせるため、ＡＬＴ（英語指導助手）とＪＴＬ（英語指導員）を全小中学校に派遣した。

小学校　低学年４時間　中学年４～８時間　高学年１２時間

中学校　全学年に対して２週間に１回程度

○市内の教員が国際的な視野から教育活動ができるように、フォートワース市への中学生派遣にあわせて、教員２名を派遣した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○生徒指導や学習指導等において特に支援が必要な学校に対して、重点的に複数の教育補助員を配置したことにより、児童生徒に教師等が向き合う時間、個に応じたきめ細やかな対応が今まで以上に確保され、学習支援の充実やトラブルの未然防止等に効果が見られた。

○ＡＬＴとＪＴＬがペアで小学校を訪問することで、児童が、文化の異なる人と積極的にかかわって、活発にコミュニケーションを図ろうとしている。小学校で培われた意欲等を中学校で生かすために、英語指導室で指導用のパンフレットを作成し、中学校に配布して、英語教員の意識改革を図り、「わかる」授業の実現を図った。

○教員海外研修事業により、教員自身が視野を広げることができた。

【どの子にもわかる授業の実現②（担当：学務課）】

＜22 年度の取組み＞

○学校規模適正化基本方針の検討のため、平成 20・21 年度に開催した「学校の適正規模と効果的な配置検討部会」の意見を受け、教育委員会内で組織したワーキンググループで教育効果の観点から基本方針（案）を検討した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○基本方針を教育委員会で決定し、その後対象校の選定、地域・保護者への説明等実施計画について検討を行う。

【どの子にもわかる授業の実現③（担当：教育センター)】

＜22 年度の取組み＞

○教員の資質・指導力の向上を図るために、研修講座、要請研修、教育研究論文の募集事業、教員サポート錬成塾、ミドルリーダー養成研修、教育講演会等を実施した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○159 の研修講座（各教科等、教育相談・特別支援、情報・視聴覚、幼児教育等）を実施し、市内学校園から、延べ、3,100 人余が受講した。また、各学校の個別の課題解決のために 214 回の要請研修を実施した。今後も、資質・指導力の向上や学校課題の解決にかける学校や教員の熱意に真摯に向き合い、支援するよう努める。

○194 編の教育研究論文の応募があり、25 編を入選とし、うち６編を優秀論文として選考した。今後も教育研究論文を募集し、優れた実践を教育研究論文集で広く紹介することにより、各学校の教育活動に生かし、市全体の教育力の向上を目指す。

○教員サポート錬成塾はベーシック（基礎・基本）コース 48 名、クリエーティブ（応用・発展）コース 29 名の申し込みがあり、「授業力をつけたい」、「教科の専門性を高めたい」などの個々の研修生の願いに寄り添いながら、その実現に向けて担当指導主事が継続的にマンツーマン指導を行った。受講生自身、受講者の所属長からも成果が大きいとの評価が寄せられた。

○ミドルリーダー養成研修は４期目の研修が修了し、16 名の修了生を送り出した。修了生は各学校の実践リーダーとして活躍するだけでなく、研修講座でも実践提案者として協力し、活躍している。

○教育講演会は荻原次晴氏を講師とし「次に晴れればそれでいい」との演題で開催した。約 800 名の参加があり、さまざまなエピソードの中に夢を持ち続けることの大切さ、教育の力の素晴らしさを考える機会になった。今後も各界の第一線の識者を迎え、実施していく。

【地域の力、市民の力を生かした教育の推進（担当：学校教育課)】

＜22 年度の取組み＞

○市民力・地域力を教育に生かすため、地域の団体、ＮＰＯ等が自主的に行う子どもを対象とする活動（自然体験活動、伝統文化の継承、環境美化活動、スポーツ・レクリエーション活動等）に対し、地域・子ども元気塾事業として助成金を交付した。（事前説明会及び公開審査会を経て助成団体を決定）

・自然・科学・文化・芸術分野

　　9団体（申請　9団体）　１，６１６千円

・スポーツ・レクリエーション分野

　　１１団体（申請１６団体）　１，９５３千円

○開かれた学校づくりを推進するため、中学校区単位での教育フォーラムや全市民を対象とした教育シンポジウムを開催した。

・地域連携フォーラム（２７中学校区で開催）
中学校単位で校区内の実情に応じたテーマを設定し、講演会やパネルディスカッション等を実施する。

・いきいき教育推進懇談会（１１月２０日（土）　出席者：保護者、教職員、一般市民等約３５０人）
「長岡の夢づくり教育～子どもたちに夢を描く力と生き抜く自信をはぐくむために～」をテーマに、学校と地域、保護者が連携した特色ある取組みを２つ紹介してもらい、その後、地域で幅広く活動している方から講演をいただいた。

＜成果及び今後の取組み等＞

○地域・子ども元気塾事業では、公開審査会を実施した結果、申請事業の内容等が十分明らかになり、公正・公平な審査を経たＮＰＯ団体等に助成を行うことができた。このことにより、地域の力や市民の力を生かした教育が推進された。

○地域連携フォーラムは、各中学校区の実情に応じたテーマを設定することにより幼・保、小、中学校の保護者、教職員及び地域の教育関係者等との連携が図られた。また、いきいき教育推進懇談会は、普段なかなか知る機会のない地域の方の活動を聞くことができ、地域力、市民力を教育に生かすことの大切さを実感する場を提供することができた。

【熱中・感動体験活動の充実（担当：学校教育課）】

＜22 年度の取組み＞

○子どもが夢中になる、感動する、夢につながる活動を充実させるため、熱中・感動体験活動（全 44 事業）を４つに体系化し、取り組んだ。(前年度より１事業増)

①個性・能力を伸ばす事業	２０事業
②感性・情操を豊かにする事業	８事業
③地域・自然を愛する心をはぐくむ事業	１３事業
④社会の一員としての意識を高める事業	３事業

＜成果及び今後の取組み等＞

○今年度、消防本部予防課による「未来の防災リーダー育成事業」がスタートした。参加生徒は消防本部に１泊し、消火訓練やはしご車体験等を通して、他人の役に立つ体験をした。夢づくり教育に一層の広がりが出てきている。

○今後、新たな事業を展開しながらも、児童・生徒にとって、より実りのある熱中・感動体験になるよう内容の改善や精選を行っていく。

【幼稚園教育・高等教育の振興①（担当：学務課)】

＜22 年度の取組み＞

○長岡市内の私立高等学校３校に対し、運営費を補助した。

補助金総額　　１５，７４４千円

○私立高校就学者の保護者の経済的負担を軽減するため、学費の助成を行った。

助成対象人数　　　　５１７人

助成金総額　　１０，１７２千円

＜成果及び今後の取組み等＞

○今後も私立高等学校の健全経営のための支援を継続していく。

○保護者の経済的負担軽減は、国の支援制度が創設されたことに伴い、助成方法について引き続き検討する。

【幼稚園教育・高等教育の振興②（担当：保育課)】

＜22 年度の取組み＞

○長岡市内の私立幼稚園に対し、次のとおり運営費等の補助を行った。

①運営費等補助

１７園　　補助金総額　１４，０８８千円

②預かり保育推進事業費補助

１１園　　補助金総額　　１，６１０千円

③障害児教育費補助

３園　　補助金総額　　　　５８８千円

○私立幼稚園就園奨励費補助金として、私立幼稚園に在園する園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、各世帯の所得状況に応じて保育料及び入園料の一部を国と市で補助した。また、補助金受給者のうち満３歳児を除く園児の保護者に対し、市単独で上乗せして私立幼稚園就園費助成金を支給した。

①私立幼稚園就園奨励費補助金（入園児に対する支給割合 76.02%）

支給対象者　　　　１，４７６人

補助金総額　　１４０，７００千円

②私立幼稚園就園費助成金（市単独助成分）

支給対象者　　　　１，３２２人

助成金総額　　　　５，３６８千円

＜成果及び今後の取組み等＞

○今後も私立幼稚園教育の振興を図り、また保護者の経済的負担軽減のための支援を継続していく。

(2)　子どものサポート体制の充実

目　　標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 21 年度 達　成　値	平成 22 年度 達　成　値
問題行動、いじめ・不登校、児童虐待などについて、関係機関等の連携による予防・対応を推進する。 【心ふれあい相談員の配置校】	１２校 (平成 18 年度)	４０校 (平成 22 年度)	３０校	３２校
特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じ、必要な支援ができる体制を整える。 【介助員及び特別支援介助員の配置数】	８２人 (平成 18 年度)	９５人 (平成 22 年度)	１１３人	１１３人
中越大震災で被災した児童生徒の心のケアを推進する。 【臨床心理士等のカウンセラーによる診断児童生徒数】	１１４人 (平成 17 年度)	５０人 (平成 22 年度)	３１人	２９人

■施策の内容

【生徒指導の充実①（担当：学校教育課)】

＜22 年度の取組み＞

○問題行動やいじめ・不登校、児童虐待など、子どもをめぐる様々な問題への対応と予防を図るため、「子どもふれあいサポート事業」を実施した。

①サポートチーム会議の開催　　　　１８件

②子どもサポートコール相談件数　　５４件

③適応指導教室（長岡フレンドリールーム、栃尾やまびこルーム、寺泊はまちゃん教室、おぐに日だまりリーム）の設置及び訪問相談員（２人）の派遣

④心ふれあい相談員の学校への派遣　　２２人を３２校へ派遣

＜成果及び今後の取組み等＞

○サポートチーム会議の開催により、困難な事例に対して、各関係機関がより専門的な立場でかかわり、明確に役割を分担することで、より適切な対応が取れるようになった。

○適応指導教室では児童生徒の状況に応じて、学習以外にも体験活動や人間関係づくり等の多様な活動を行い児童生徒の適応を促す援助ができた。さらに各学校との連携を深め、適応教室への通級や訪問相談につなげたい。

○長岡市におけるいじめや不登校、暴力行為等は全国や県の発生率を下回っている。今後はさらに関係機関との一層の連携を図っていく必要がある。

【生徒指導の充実②（担当：教育センター）】

＜22 年度の取組み＞

○いじめ、不登校、対人関係や学習・行動の問題、就学や家庭における養育の問題、心身に障害のある児童生徒の指導などについて対応を図るために、面接相談、電話相談、学校支援訪問を実施した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○３月末までに面接相談 260 件、2,199 回。電話相談、1,480 回。学校支援訪問 153 件の実施であった。今後も保護者、学校園の教職員と連携して児童生徒へのよりよい対応に努める。

【特別支援教育の充実（担当：学校教育課)】

＜22 年度の取組み＞

○個々の教育ニーズに応じた特別支援教育を推進するため、介助員等の人的支援や特別支援学級の新増設等環境整備の充実を図った。

①養護学校への介助員・看護師の配置	介助員１８人　看護師２人
②特別支援学級への介助員の配置	３９校　６５人
③通常学級への介助員の配置	２４校　３０人
④特別支援教育アシスタントの配置	２２校　２５人
⑤特別支援学級の新増設	小学校３学級　　中学校３学級
⑥発達障害通級指導教室の新設	小学校１教室

＜成果及び今後の取組み等＞

○介助員等の配置や特別支援学級の新増設により、特性に応じた指導・支援を行い、自己肯定感を高めるとともに、基本的生活習慣の定着、コミュニケーションや社会性の向上等の成果が見られた。

○通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の割合が増加傾向にあることから、特別支援学級及び通級指導教室の設置を計画的に進めていく必要がある。

○養護学校においては、卒業後の進路を見据えた指導の充実を目指し、高等部の新たな教育課程導入の準備を進めている。また、卒業後を含む様々な相談

に対応する総合支援室を平成24年度に設置する予定である。

【心のケア対策の充実（担当：学校教育課)】

＜22年度の取組み＞

○中越大震災後の学校内における日々の児童生徒の心のケア体制を支援するため、養護教諭等への専門的な指導、研修を行うとともに業務の補助体制を構築した。

①校内支援体制の充実を図るため、心のケア担当者への全体研修会を実施した。

各学校１人参加（８２人）　年１回開催

②養護教諭が心のケアに関する業務を行うための職務環境を確保するための補助員の派遣

２３校に延べ２００日派遣

＜成果及び今後の取組み等＞

○全体研修会を開催することで、校内支援体制の見直しの機会を得ることができた。

○養護教諭への補助員の派遣により、養護教諭が心のケアを必要とする児童生徒に接する時間が増えた。また、健康相談等本来の業務に専念することができた。

○心のケアについては、長期的、継続的な取り組みが必要であり、引き続き担当教諭等に対する研修及び養護教諭補助員の派遣を行う必要がある。

(3)　青少年の健全育成活動の推進

目　標	基準値(年度)	目標値(年度)	平成21年度達成値	平成22年度達成値
青少年体験プログラムの参加者数を増やす。	1,380人(平成18年度)	1,500人(平成22年度)	1,374人	998人
街頭育成活動に対する育成員の参加率を高める。	７３．３％(平成17年度)	８０．０％(平成22年度)	７７．１％	７５．６％

■施策の内容

【交流・体験学習環境の充実（担当：子ども家庭課)】

＜22年度の取組み＞

○会場を変更して実施することにより、事業のマンネリ化の防止を図った。

①「夏のつどい」を妙高から磐梯へ変更し、プログラム内容を一部変更して実施した。（今後も交互に会場を変更し実施する予定）

②「子どもフェスティバル」を長岡ニュータウン公園から市営スキー場へ変更し、新しい団体の参加も呼びかけた。

＜成果及び今後の取組み等＞

○「夏のつどい」は会場を変更して行ったが、開催日が夏休み終了時近くだったため、思ったより参加者が増えなかった。

○「子どもフェスティバル」も会場を変更し、新たな団体の参加も予定していたが、荒天のため中止となった。２年続けて中止とならないよう、会場を選定する。

○高校生ボランティア講座について、市内の高校への周知を強化したことにより、参加者が増加した。

○今後も参加者の増加に向けて、プログラム内容や募集方法の見直しを検討していく。

【非行防止活動の充実（担当：子ども家庭課)】

＜22 年度の取組み＞

○街頭育成活動の認知度を高めるため、小・中・高等学校のＰＴＡを対象に一日青少年育成活動を体験してもらった。また、青少年育成員がコミュニティセンターに出向き、各地域における青少年健全育成活動の実態把握と課題を共有し、非行防止活動の充実を図った。

①街頭育成活動実施状況

実施回数	４６８回
延参加育成員数	１，８４４人
補導者数	２７０人

②青少年相談活動実施状況

面接	２０件（延１５６回）
電話	１３１件
メール	６９件（延３０３回）

＜成果及び今後の取組み等＞

○長期的、継続的に行っている街頭育成活動が非行化を未然に防ぐ抑止力になっている。

○地域における育成活動に力点を置いた取り組みとして青少年育成員がコミュニティセンターに出向き、警察をはじめ小・中・高の生徒指導研究協議会との意見交換を行ったことで、課題解決に向けた取り組みと関係機関との連携が図られた。

○一日育成活動体験事業を就学前の子どもの保護者や小・中・高校生の保護者を対象に実施したことで、育成活動の認知度を高めることができた。

○今後も繁華街以外の地域での育成活動を充実させていく。

(4)　安全・安心な教育環境の整備

目　　標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 21 年度 達　成　値	平成 22 年度 達　成　値
「地域の子どもは地域で守る」ことのできる体制を整える。 【小学校区単位の「セーフティーパトロール」団体の組織率】	６７．６％ (平成 17 年度)	１００．０％ (平成 22 年度)	１００％	１００％
市立小・中・養護学校の校舎・屋内運動場の耐震化率を高める。	４８．４％ (平成 17 年度)	６２．５％ (平成 22 年度)	７７．０％	８０．１％

■施策の内容

【子どもの安全確保を図る体制づくりの推進（担当：学校教育課)】

＜22 年度の取組み＞

○登下校時の通学路及び校区における児童生徒の安全確保を図るため、セーフティーパトロール事業等を推進したほか、学校や警察から報告を受けた不審者情報のうち、事件、事故に結びつく可能性のある情報を小中学校及び関係機関に提供した。

①通学路点検の実施　　全学区（小学校６０校区、中学校２７校区）
②地域住民によるセーフティーパトロール団体数　６０団体
③学校教育課が小中学校、関係機関へ提供した不審者情報　１０件

＜成果及び今後の取組み等＞

○市内 60 小学校区全区でセーフティーパトロール団体等による子どもの安全を守る活動が実施された。

○今後は、セーフティーパトロール団体に所属し、実際に活動する人数を増やしていく必要がある。

【防災・防犯教育の充実（担当：学校教育課)】

＜22 年度の取組み＞

○児童生徒用の防災パンフレット「中越大震災に学ぶ」を活用して児童生徒に指導するとともに、各学校で次の取組みを実践した。

・各学校で作成した通学路安全マップの改善と活用　　全小中学校
・地震、火災を想定した防災訓練、避難訓練の実施　　全小中養護学校
・不審者侵入等を想定した防犯訓練、防犯教室の実施　全小中養護学校

＜成果及び今後の取組み等＞

○各学校で防災・防犯訓練等を消防署、警察署等の関係機関と連携し実施することにより、児童生徒の防災・防犯に対する意識が定着してきている。

○危険を予測し、回避する能力を身に付けさせる防犯教育の充実を今後も図っていく必要がある。

○中越大震災から６年が経過した。今後、児童生徒用の防災パンフレット「中越大震災に学ぶ」の見直しを行ない、防災教育の充実を図っていく必要がある。

【学校施設における安全性の確保（担当：教育総務課)】

＜22 年度の取組み＞

○小学校８棟、中学校９棟の耐震化工事を実施したほか、小学校２棟の改築が完了した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○平成 19 年度において、設定した目標値を達成することができたが、平成 22 年度はさらに前年度より３．１ポイントの上昇となり、80.1%になった。平成 27 年度の耐震化率 100%に向けて今後も計画的に事業を推進していく。

(5)　歴史的・文化的遺産の継承及び活用促進

目　　標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 21 年度 達　成　値	平成 22 年度 達　成　値
歴史的価値が高い建造物の実態把握・保存を進め、教育や地域振興に活用できる機会を増やす。 【市内に所在する歴史的価値が高い建造物の国登録文化財登録件数】	５件 (平成 17 年度)	２５件 (平成 22 年度)	２１件	２３件
地域に伝わる民俗芸能の適切な保存を進め、後世に伝承される機会を増やす。 【記録保存用にビデオ収録した民俗芸能の演目数】	１７９演目 (平成 17 年度)	１９０演目 (平成 22 年度)	１８６演目	１８６演目

■施策の内容

【歴史的・文化的遺産の保存及び継承（担当：科学博物館）】

＜22 年度の取組み＞

○登録有形文化財として、新たに２件の物件が登録された。また、和島地域・中之島地域の歴史的建造物調査を長岡造形大学へ委託して実施し、両地域の歴史的建造物の台帳を作成した。

○第 37 回郷土民俗芸能公演会を開催し、多くの市民に郷土民俗芸能の魅力をアピールした。

＜成果及び今後の取組み等＞

○歴史的建造物の悉皆調査により、和島地域・中之島地域に所在する物件の基礎データが得られた。この調査は、23年度に実施する川口地域・三島地域の調査でひととおり終了となるが、将来的にどの物件を登録有形文化財に推薦するのか、明確な選考基準の確立が求められている。

○リリックホールシアターで行われた郷土民俗公演会では、同協会所属の３団体により14演目が公開され、約120人の観覧者があった。

○民俗芸能の記録撮影については、舞手・地方の不足等の理由により撮影困難な演目があり、後継者の育成が急務である。また、記録媒体の転換（ビデオからＤＶＤへ）についても、早急に推し進める必要がある。

(6)　市民主体の生涯学習の推進

目　　標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 21 年度 達　成　値	平成 22 年度 達　成　値
生涯各期における学習機会の場として、中央公民館の利用者数を増やす。	79,696 人 (平成 17 年度)	110,000 人 (平成 22 年度)	74,114 人	72,190 人
「ながおか市民大学」など各種講座を開催し、学習機会の場を提供する。 【各種講座の開催数、参加人数】	33 講座 163 回 1,408 人 (平成 17 年度)	40 講座 190 回 2,000 人 (平成 22 年度)	35 講座 130 回 1,562 人	25 講座 105 回 1,759 人
市民が市内の図書館を利用する機会を増やす。 【市民１人当り年間図書館資料貸出数】	5.7 点（冊） (平成 17 年度)	6.5 点（冊） (平成 22 年度)	6.4 点（冊）	6.2 点（冊）

■施策の内容

【生涯学習機会の充実①（担当：中央公民館）】

＜22 年度の取組み＞

○青少年から高齢者まで、幅広い年齢層を対象とした講座を開催した。

○地域の文化や歴史、健康、医学、現代的課題、自然分野等、多彩なテーマの講座を開催した。

○各講座とも「市民ニーズ」や「今が旬のテーマ」を考慮した講座の実施に努めた。例えば、成人講座では、市民に絶大な人気の長岡近世史にかかわる講座を４回連続で実施した。各回とも多数の参加者があり、長岡市民のルーツにいかに興味関心があるか伝わってきた。また、最近の温泉ブームや健康志向にそって、「温泉の楽しみ方」や「健康になるセルフケア」といった講座も開催した。

○家庭の教育力向上を目指した家庭教育講座は、幼児及び小・中・高校生をもつ親が様々な教育問題と向き合いながら、自分ならどう対応するかを学べる講座として毎回多くの受講があった。また、親が学習に専念できるよう幼児保育サービスも実施し、受講生には好評だった。

○ながおか市民大学では、市内３大学と高専の得意分野を活かし、市民向けに魅力ある 13 講座を開催した。「数学」や「銀行」など今までにない新しい分野の講座を開催した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○成人講座の一部の講座（「野菜学のススメ」など）は、昨年度、会場の関係で募集人数が限られ、受講できなかった人が多かったため、会場を中央図書館に移し募集人数を拡大し、また内容も充実させて実施した。いずれの講座も 100 名に達する受講者数があり、多くの市民の要望に応えることができた。

○毎年、家庭教育講座を楽しみに参加するリピーターが多くいる反面、学習者の拡充から考えると新規受講者の開拓も必要である。

○ながおか市民大学をまちなかキャンパス長岡（平成 23 年 9 月オープン）に発展的に移行する。

【生涯学習機会の充実②・生涯学習関連施設の整備①（担当：中央図書館）】

＜22 年度の取組み＞

○予約図書の受取や返却ができる「図書館取次所」を川口地域に設置し、市内の取次所は７か所となった。

○2010 年が国民読書年にあたることから、記念イベントを８回にわたり実施した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○国民読書年イベントは、参加者は多かったものの貸出冊数増加につながらなかった。今後も事業を継続し、読書普及につなげたい。

○今後も利用者の利便性向上を図り、貸出冊数の増加をめざしたい。

○自動車文庫の土日運行についての要望等を探りたい。

【生涯学習関連施設の整備②（担当：科学博物館）】

＜22 年度の取組み＞

○史跡馬高・三十稲場遺跡の整備に伴い、縄文時代の復元住居（壁立式の竪穴住居）１棟の建築工事を行った。当初の予定どおり３月末に竣工した。

○市町村合併に伴う資料収集・調査については、地域資料館や支所（三島郷土資料館、栃尾支所等）に収蔵されている資料の台帳作成等を実施した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○復元住居については、隣接する馬高縄文館と一体になって、史跡公園の一部として活用を図る。平成 23 年度は、三十稲場遺跡部分の造成・植栽工事を行うとともに、史跡全体のサイン工事も実施して、史跡公園としてのオープンを目指す。

○科学博物館は、平成 25 年度に幸町庁舎へ移転する予定であり、平成 23 年度は、移転改修にかかる基本・実施設計を行う。また、移転を機に新市域全体に関わる資料収集・調査等に努める。

(7)　スポーツ・レクリエーション活動の推進

目　　標	基準値(年度)	目標値(年度)	平成 21 年度達　成　値	平成 22 年度達　成　値
市民が身近な場所で運動やスポーツを行う拠点づくりを進める。【市内の教室・クラブ開設数】	724 クラブ (平成 18 年度)	900 クラブ (平成 22 年度)	７８７クラブ	８３３クラブ
ジュニア期からの選手育成強化システムの確立により、競技選手の育成・強化を推進する。【市内の中学・高校生の全国大会県予選において、ベスト４に進出した生徒数】	398 人 (平成 18 年度)	500 人 (平成 22 年度)	４３１人	４４０人
スポーツ・レクリエーション施設のサービス水準や効率性を高める。【施設管理に指定管理者制度を導入した施設数】	９施設 (平成 18 年度)	20 施設 (平成 22 年度)	２１施設	２６施設

■施策の内容

【生涯スポーツ活動の充実（担当：スポーツ振興課）】

＜22 年度の取組み＞

○コミュニティースポーツ推進組織の中核となる体育指導委員、体育推進員に対し、コーディネーショントレーニングをはじめとして、地域住民の生涯スポーツ活動を推進するために必要な質向上を目指した研修会を開催した。

○地域住民の自主的なコミュニティースポーツ活動の活性化を図るため、コミュニティースポーツ推進組織の育成に要する事業に対し補助を行った。

○長岡市体育協会や競技団体と連携した各種競技別大会のほか、体育指導委員と連携した日常のスポーツ活動の発表の場としての大会を開催した。

○市民のスポーツ活動のニーズに応えるため、長岡市体育協会やレクリエーション協会等の組織や財政基盤の確立を図り、各団体が積極的な活動を展開できるよう財政支援を行った。

＜成果及び今後の取組み等＞

○地域スポーツ活動の中核となる体育指導委員等の人材育成を図り、また、活動費の一部を助成することで、コミュニティースポーツ活動推進組織の充実がなされ、地域住民の身近な場所でスポーツをする機会を多く提供することができた。

○競技性の高い大会のほか、身近で参加しやすい種目の大会を開催することで、様々なレベルでスポーツを楽しむ市民に対して、活動の成果発表の場を提供することができた。

○地域の日常的なスポーツ活動のきっかけづくりとして、専門の講師を派遣したことで、多くの地域でニュースポーツ等の体験を行うことができた。

○体育協会加盟 48 競技団体、スポーツ少年団 158 団体、レクリエーション協会加盟 16 団体を通じ、多くの市民がスポーツ・レクリエーションを楽しむ機会を提供することができた。

○コミュニティースポーツ推進組織の中核となる体育指導委員、体育推進員に対し、引き続き、資質向上のための研修を行っていく。

○スポーツ指導等に実績のある専門家等を活用しながら、地域のスポーツ活動の実情や課題などを調査することで、地域住民が楽しみながら参加できるよう、コミュニティースポーツ活動推進組織の更なる充実を目指していきたい。

【競技スポーツの振興（担当：スポーツ振興課）】

＜22 年度の取り組み＞

○インターハイ長岡市開催種目を中心としたジュニア選手の強化を行ってきた。

○世界で戦うトップアスリートである北島康介選手を招聘し、子どもたちの交流の機会を設け、ジュニア選手の競技力の向上と子どもたちの夢を育む事業を実施した。

○国際的または全国大会出場者の栄誉を称え、激励会を開催し、報奨金を交付した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○平成 24 年度開催のインターハイに向けて、着実に選手の強化を行なってきた。

○国際的または全国大会出場者は、年々増加している。

○平成 23 年度は、実行委員会を設立し、平成 24 年度開催のインターハイが円滑に開催されるよう準備を進めていきたい。

【ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ施設の整備及び管理運営（担当：スポーツ振興課)】

＜22 年度の取組み＞

○長岡ニュータウン運動公園の第１期工事として平成 23 年度中に供用開始を目指してサッカー場１面の整備と管理棟の建築工事に向けた実施設計を行った。

○平成 22、23 年度の２箇年継続事業で中之島体育館の改築工事を行った。

○平成 23 年度に悠久山野球場の大規模改修工事を実施するため、実施設計委託を行った。

○住民サービスの向上と管理運営の効率化を図るため、越路河川公園ほか 10 施設に対して指定管理者制度を導入した。

＜成果及び今後の取組み等＞

○長岡市スポーツ施設整備基本構想に基づいた施設整備や、既存施設の効果的な利活用を推進していく。

○優れたアスリートを育成するため、専門的な練習施設の整備が必要不可欠であり、器械体操専用練習場の整備等について具体的に検討していく。

○既存の体育施設に対して施設の規模や内容を確認しながら指定管理者制度を導入し、住民サービスの向上と管理運営の効率化を図る。

平成23年7月28日

長岡市教育委員会
委員長　大橋　岑生　様

長岡市教育委員会事務評価委員会
委員長　原田　義夫
副委員長　中曽根　勝彦
委員　樋熊　憲子
委員　永井　千恵子

点検及び評価に対する意見書

平成22年度に執行された長岡市教育委員会の会議、施設訪問、事務事業の内容及びその点検、評価結果について、教育委員並びに事務局職員からヒアリングを行い、長岡市教育委員会事務評価委員会として協議、検討を行った。

ここに長岡市教育委員会事務評価委員会設置要綱（平成20年5月30日　教育委員会告示第18号）の規定に基づき当委員会の意見を報告する。

●全体を通しての意見

長岡市教育委員会における事務の管理及び執行については、多方面に目を配り、きめ細かく精力的かつ積極的に各施策に取り組まれていることがうかがわれ、それぞれの施策において設定された目標も概ね達成されており、事務評価委員会として高く評価するものである。

なお、付言すれば、各事業において設定した目標値の達成が課題の解決に直結するとは言いがたいものもあり、目標値設定のあり方について検討を加える必要があると考える。

●各施策についての意見

Ⅰ　教育委員会会議の開催及び審議状況等について

学校現場や支所地域に出向いて定例会を開き、傍聴者数が増加してきていることを評価する。議事録のホームページでの公開も審議の透明性があり、身近に感じられる。引き続き、傍聴に関するＰＲやホームページの改善などを行い、より開かれた教育委員会を推進することが望まれる。

また、施設訪問については、的確な視点で訪問され、教育委員それぞれの観点に基づいた意見を出し合うことで今後の施策の推進に活かされるように努めている点について評価する。時間の許す限り現場との懇談の時間を確保してほしい。

Ⅱ　教育委員会における事務の点検・評価について

１　生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現

(1)　子育てを支援する場の整備

雨天や降雪時、休日の遊び場・集う場として、「てくてく」に加えて「ぐんぐん」や「ちびっこ広場」が整備され、充実してきていることを評価する。

今後は、利用者の声、願い、また声なき声に耳を傾け、それを活かす方法を検討し、ソフト面の充実に期待する。また、市民参加型の事業運営を更に充実させるために、運営委員について男性の参画を積極的に進めていくことが重要であると考える。

さらに、遊具、玩具の安全な遊び方や片付けの習慣などが子どもたちの身につくような施策の展開などを検討することもよいと考える。

(2)　子育て支援サービスの拡充

相談しやすい環境づくりの推進のため、地域に出向いている取組みを評価する。今後は、悩みを抱えながらも支援センターに行けない親もいることが推察され、ネットワークを広げる環境づくりを期待する。

「すこやかファイル」の見直しを行ったことは、就学支援体制をよりよいものにしようとする強い姿勢がうかがわれることから評価する。幼保と小学校、

さらには中学校にも繋がるものとなるよう、一層の見直しや活用方法の工夫を望む。

市民アンケート調査によると、子育て支援の充実として「仕事と育児の両立しやすい職場環境」を求める数値が高い。使いやすい保育サービスを継続してほしい。

2　人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現

(1) やる気や学ぶ意欲を引き出す教育の推進
（熱中！感動！夢づくり教育の推進）

どの子にもわかる授業の実現のため、財政事情が厳しいなかではあるが多数の教育補助員を配置し、学校現場を支援していることを評価する。今後も増員を期待する。

学校規模適正化基本方針の検討にあたっては、効率化・合理化の観点も重要であるが、教育本来の人間形成のあり方、地域の事情や特性等も重要な観点と認識して進めてほしい。

教員サポート錬成塾、ミドルリーダー養成研修等の成果が認められ、教員の資質・指導力の向上策としての特色ある取組みを評価する。一層の充実、発展を期待するとともに、研修の基調として、長岡の教育が目指す「米百俵の精神」をもとにした人づくりを強調してほしい。

熱中・感動体験活動については、これまでの実施状況を集計・分析し、全市内の各学校や事業内容に偏りがないか検討を加え、今後の実施にあたっての配慮事項としてほしい。

未来の防災リーダー育成事業を評価する。ぜひ継続してほしい。

私学への支援の継続実施を評価する。教育を受ける格差がないようにしてほしい。長岡の人材の育成につながるものと考える。

(2) 子どものサポート体制の充実

養護教諭に限らず、どの先生も子どもにとって話しやすい先生であってほしい。これまで児童生徒と教職員との間での信頼関係づくりに努めている点や、研修会の開催などを継続的に実施していることを評価する。

(3) 青少年の健全育成活動の推進

交流・体験学習については、会場の変更等による成果が認められる。今後もマンネリ化の防止について一層の工夫、努力を期待する。

長期に継続している街頭育成活動を評価する。保護者や地域の人々が子どもたちを取巻く環境を学習することで非行等を未然に防ぐことに繋がる。また、長岡の「まち」づくりを考える機会にもなると考える。

(4) 安全・安心な教育環境の整備

この度の東日本大震災を鑑み、学校の防災計画の見直しが求められる。また、マニュアルどおりにいかない状況が発生しても対応できる力を養うことが必要ではないかと考える。突然の非常時のときこそ、日常の当たり前が弊害と

なってあらわれてくる。この機会に何気ない男女の役割分担意識についても考える必要がある。また、子どもたちの安心安全だけでなく、地域の住民の安心安全を考え、真に身につく主体的な防災教育を期待する。

このような面から防災パンフレットの活用を評価するが、その見直しも必要と考える。

(5) 歴史的・文化的遺産の継承及び活用促進

長岡市の歴史的・文化的遺産の保存・継承について、今後も続けてほしい。後継者の育成は時間がかかるであろうが、継続的に取組んでほしい。また、保存及び継承していくものの選考基準の確立や、記録媒体の転換を早急に具現化する必要が認められる。

(6) 市民主体の生涯学習の推進

生涯学習機会の充実として、講座の内容が充実しており、「市民ニーズ」や「今が旬のテーマ」を考慮した創意工夫を評価する。学ぶことの楽しさがあると参加者は増えてくると考える。今後の利用者数の増加に期待する。

事業実施に当たって、継続して保育ルームを設置していることを評価する。今後も子育て中の親に学ぶ機会をぜひ提供してほしい。

(7) スポーツ・レクリエーション活動の推進

市民のスポーツを楽しむ機会が充実していることを評価する。また、コミュニティスポーツ活動については、親子で楽しめるものや高齢者等の参加に配慮してほしい。さらに、高齢社会においては、楽しみやすいスポーツによって体を動かすことが大事であることを伝え、理解を広げていくことが望まれる。